

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団向仁会グループホームよるこびの家 住慶 福	評価実施年月日	平成21年12月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月24日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	『よるこびの家住慶』として職員全員で話し合い決めた理念がある。又、新規職員へは採用時に説明を行い、事業所の理念を把握してもらえる様努めていく。	理念の変更・追加等がある場合は会議等できちんと話し合っている。
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	朝礼時に職員全員で集まり、理念の確認・実践出来る様に取り組んでいる。また、業務中に職員同士で話し合い理念に沿った業務を行うように努めている。又、理念をスタッフルームや共有スペースに掲示し共通の認識を図っている。	朝礼時に職員全員で集まり、理念の確認・共有し実現に向けて取り組んでいきたい。業務に励みながら、理念の実践を行って行きたい。定期的に話し合いを行い、理念の追加・変更等も視野にいれ取り組みを行う。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	理念を建物内(玄関、廊下、多目的室)に誰でも見れるように掲示している。また、入居時や面談時に、地域に対しては2ヶ月に1度開催する運営推進会議等でも議題にあげて説明をしている。	ご家族や職員には理解されているが、地域の方に理解を深めていただけるにこれからの交流の場での、理念についての説明と話し合いを行いたい。今後も継続を行う。理念の追加・変更の際は運営推進会議等で十分に説明を行いたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	外出の際などに近隣への挨拶や日常会話等をしている。また、広報誌を定期的に作成し町内会の回覧板へ入れてもらっている。行事の際には近隣の方の参加もあり気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。	行事だけの参加ではなく、普段からの付き合いを大切に、少しでも事業所の理解を深めてもらうように努めて行きたい。ふれあいの機会を設けられるように地域へ働きかけていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会や近隣での催し物に参加させてもらっている。又、町内会で行っている資源回収に協力したり、ボランティア等を招いてのお付き合いを行っている。	今後も地域との交流が出来るように働きかけ、様々な交流がもてるように広報誌などに力を入れて頑張っていきたい。
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	町内会の福祉に関する相談等の助言を行っている。身近な所では散歩等を行っている時に近所に住まわれている高齢者のお話し相手にもなっている。2ヶ月に1度運営推進会議を定期的に開催し、地域への福祉の還元を努めている。	運営推進会議を通じて、地域に福祉の還元を行う機会を、協力し合い行っている。今後も継続して地域への貢献に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に自己評価の作成・外部評価の実施を行い、現在の状況把握と今後の業務への改善点を明確化し改善に取り組んでいる。また職員の意識の向上も図ることが出来ている。</p>	<p>評価された結果を活かして、管理者を中心に職員全員で改善に努めている。また、入居者や家族にも評価の意義を理解してもらえるように自己評価の書類をスタッフルームの前に置いたり、運営推進会議等での説明を行い事業所の取り組みや改善の内容を把握してもらえるように努めていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1度運営推進会議を行い、地域、家族、関係各所の意見をサービスの向上に反映させるように努力している。</p>	<p>参加者を多く出来るように関係各所に働きかけたいと思っている。その為に会議の際に多くの情報を頂けるように努めていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>生活保護受給者の方も居られるため、随時訪問がある際に話し合いを行っている。</p>	<p>サービス担当者会議等にも参加し、サービスの向上に取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>資格取得時や外部の研修会等にも積極的に参加し学んでいるが、現在は必要とされている方はいない。</p>	<p>入居が長くなるにつれ、身元引受人の状況も変化することが見込まれるので、制度の活用も視野に入れている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員採用時に高齢者虐待防止についてオリエンテーションを行い、高齢者虐待防止の感想文の作成を行っている。又、身体拘束廃止委員会が設置されており、事例検討を行い防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置して、身体拘束・様々な虐待等について話し合い、防止に努めている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居又退居時には担当者より十分な説明を行いきちんと納得されるように努めている。</p>	<p>きちんと契約に対して納得いただけるように、丁寧な説明を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの要望があるときは、その都度対応を行っている。判断の難しいときは家族と相談行い対応している。また、苦情受付窓口を設けているため、随時職員全員での情報の共有と改善策の話し合いを行っている。		信頼関係を築き意見の言いやすい環境作りに努めている。不満は情報を共有し早期解決に努め、苦情も受付担当を決め、適正に処理を行っている。又、毎月のスタッフ会議でも意見のくみ上げの努力を行っている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	電話連絡・毎月の請求書類の発送時にお知らせや広報誌を作成して送っている。また、面会時にも職員より報告を行っている。		健康状態については面会時他、定期的に報告を行っている。金銭の管理については、毎月の請求時に明細を送り、金銭の出し入れを詳細に伝えている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置し、意見・苦情等を運営に反映させている。また、モニタリング・サービス担当者会議・運営推進会議等でも意見等を聞く機会を設けている。又、意見箱の設置を少しでも意見の言いやすい環境作りに努めている。		写真を掲示し、顔の一致をしてもらい職員が積極的に意見を聞く。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議等を最低毎月1回必ず実施して意見を聞いている。また日々の業務の中でも意見等を聞く機会を設けている。		意見が出た際は全体管理者会議で話し合い、運営者へ反映出来るように努める。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフ会議等で話し合いを行い、勤務の調整を行っている。又、管理者との個人面談も行われている。又、行事等の人員を多くし必要な時間帯に職員を確保している。		利用者が毎日の生活をゆったりと過ごせるように、きちんとした勤務が出来るように努めている。人員にゆとりをすることによりインシデント・アクシデントを防ぐことが出来ている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と利用者がなじみの関係を築けるようにする為、職員の異動・離職を最低限に抑えている。		定期的な職員との面談を行い、職員の気持ちの把握に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修係りを選出し、定期的に勉強会を実施している。また、外部での研修会にも積極的に参加し、職員の質の向上に努めている。</p>	<p>全員がそろって参加できることは難しいが、出来るだけ職員のやる気を大切にして、必要ならば勤務の調整等も行い職員の質の向上に努めている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡協議会のブロックで親睦会や勉強会を行い交流する機会を設けている。</p>	<p>出来るだけ意見の交換や交流の機会を持てるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>相談事がある場合は管理者へ相談出来るよう環境を作っている。また、職員同士で親睦会や交流会を行って取り組んでいる。シフト作成時に希望休等の意見を聞きストレス軽減の工夫を行っている。</p>	<p>職員同士で言えない事やストレスの軽減の為、管理者が中心となり働きやすい工夫をしていきたい。職員が定時で帰宅出来る様に業務改善を行っている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>契約更新時に人事考課を行い個々に合った指導を行い向上心を持ってもらうように努めている。</p>	<p>向上心を職員が持つことにより、更にサービスの質が上がると思うので、職員が向上心を持って働けるように管理者が中心となり、運営者へ働きかけていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>担当者が入所に至るまでに、十分にご本人との話し合いを行っている。</p>	<p>利用者の目線に合わせて、きちんとした信頼関係を作るように努めている。又、入居窓口の担当者は認知症ケア専門士の資格を有しており、認知症のお世話をしているご家族との信頼関係を築くのに長けている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>担当者が入所に至るまでに、十分にご家族との話し合いを行っている。</p>	<p>言いにくい事もあると思うので、親身に話を受け止めるように努めている。又、入居窓口の担当者は認知症ケア専門士の資格を有しており、認知症のお世話をしているご家族との信頼関係を築くのに長けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者がご本人とご家族と十分に話し合いを行い、その時必要とされる支援方法を決めている。		情報収集をきちんと行い、きちんと個々に合った支援方法を行うように努めている。虐待等の緊急性の高いケースは優先できるようにしている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居される前からの段階での見学やパンフレットの配布等を行い、ご本人に考えてもらえるように努めている。可能であれば本人への見学を勧めている。		利用者の生活歴や習慣をきちんと知り、きちんとした対応を職員全員が出来るように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事等を一緒に行うことにより支え合う関係を築いている。毎日の中で利用者から学ぶことは多いので信頼関係を築いている。		一方の立場にならない様に、入社時のオリエンテーションできちんと管理者より説明を行っている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やサービス担当者会議時にご家族と話し合い、ご家族・ご本人共に親しみのある関係を築くように努めている。		家族でなければ知らないことや、家族でないと言えない事もあると思うので、きちんと家族とも情報の共有を行い共に支援できるような体制を築いている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時にご家族とより良い関係を築けるように、情報提供を行っている。(例、日常生活等の情報)又、行事等にお誘いしより良い関係が構築できるように支援を行っている。		行事に参加を呼びかけ、利用者と一緒に楽しい時間を過ごすよう支援したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族のご協力のもと、ご本人が行きたい所へ行く支援が出来ている。かかりつけの病院へ通院したり、元の職場等への同行の支援も行っている。		今後も継続して馴染みの関係を作っていけるような支援に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常的に利用者同士が過ごし、交流を深めている場面がよく見られている。また家事の場面や日常生活においても入居者同士が声かけや誘導等の助け合う場面も見られる。		毎日の交流を深め、遊びを通じて仲間意識が育っている。家事等では役割分担も出来ており、時には他の利用者へのお世話する様子も見られている。これからもこの関係を大切にし、より入居者同士の係わり合いの場面を作りたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院により退居された利用者の所へ機会を見つけて見舞いに行ったり、お手紙を作成している。		ご家族のご了承を得て契約の終了された方の見舞いに伺っている。又、葬儀にも参列したことがある。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中から思いを汲み取るように努力し、その人に違った生活を送ってもらうように努めている。		言葉のみならず、うなずきや表情からも思いを把握するように努めている。モニタリングやケアカンファレンスそしてスタッフ会議等で話し合い検討している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントをしっかりと行うことにより生活歴を参考にしたケアを実施し、そのケアの中から、経験・出来事・思い出を聞き今後に生かすようにしている。		家族関係、職歴、趣味などのアセスメントに力を入れている。一人ひとりとお話を行い、色々と情報を聞きだせるように努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の様子や変化や気づきを介護記録に残している。そしてケアカンファレンスより担当者を中心に意見等を出し合っている。		日々の生活を知ることにより、何か些細なことでも発見できるようになると思うので、職員全員で個々の生活のリズムを把握できるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の記録、ご家族からの情報を集めて状況把握すると共に、ケアカンファレンス、サービス担当者会議でご本人、ご家族、主治医からの意見を求めて介護計画を作成している。		サービス担当者会議、ケアカンファレンスの場を活用し、本人、家族、関係者ときちんと話し合いを行い、反映された介護計画の作成に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは必ず3ヶ月ごとに実施しており、また身体状況が変化した時や事故等があった場合は速やかに見直しをかけている。		介護支援専門員を中心とした対応を行っている為、現状に合った計画を作成している。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や変化を介護記録に記入している。その他、パソコンを活用した情報伝達や職員間での話し合いで情報の共有に努めている。		今後も更に情報を活かし、その方に合った介護計画を作成できるように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隣に同法人の介護老人保健施設、クリニックがあり、その時に応じた対応をしている。		様々な要望に応じて事業所の機能を存分に発揮して対応する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を軸に地域・提携施設との協力体制を密に取れるように努めている。		地域の様々な機関との連携を図り、支援している。(例、学校・保育園・町内会・消防署等)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	インフォーマルなヘルパーを話し相手に利用されている方もいる。		今後、必要に応じて本人と話し合い支援するように努めていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議が協働の場である。又、当法人の地域包括支援センターより入居の申し込みもあり協働の体制がとられている。		関係各所の役割を知ってもらい、様々な課題に対応していけるように、今後も協力体制を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度医療連携看護師により健康管理が行なわれている。又、約半数が係りつけ医受診されているので、付き添い等の支援を行っている。		今後もより一層医療連携看護師との連携が必要となっていくため、互いに協力していきたい。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当方のクリニックに認知症ケア専門士の資格を持つ医師がおり、必要に応じて助言・指示を受けれる体制を確保されている。		他の医療機関へ通っている方の対応もきちんと出来るように、支援していきたい。
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度医療連携看護師による健康管理が行なわれている。又、24時間体制で連絡が取れるので緊急時にもきちんと対応が行える。		今後も同様の対応を行っていく。入居者の健康管理を密に行なう情報の共有を行っていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には当ホーム相談員と入院先の医師やソーシャルワーカーとの話し合いをしており、入院が長期化しないように連携を取り合っている。		早期退院を目指し、入院先の医療機関との連携を行って行きたい。また、入居者の面会等も行い精神的な支援も行えるように努めていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について看取りの方針がある。		症状の重度化や終末期の対応も必要となるため、きちんと職員全員で対応していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の変化に対しては主治医・医療連携看護師等との連携を行い、体制は出来ている。		症状の重度化や終末期の対応も必要となるため、きちんと職員全員で対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住替えの際には担当者が十分な話し合いを行っている。又、事前の見学を行い、情報の収集に努める。住替え後は十分に観察を行い、職員間での情報の共有に努めている。</p>		<p>担当者が中心となり住替えのダメージを最低限に防ぐように努めている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉使いや個人情報の取り扱いには、最善の注意を払い取り扱っている。理念に基づき入居者個人の気持ちを考慮した声かけ対応を行っている。</p>		<p>業務にあたって入居者の立場になった対応を行えるように職員同士きちんと協力し合って対応している。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>こちらで決して決めずにご本人の意思や希望を考慮した支援を行っている。介護計画作成時に本人の意向を確認している。</p>		<p>入居者の思い出等を引き出すように努め、自己決定が出来るように支援している。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日頃より入居者の自己決定を尊重し、自由に本人のペースでの暮らしを支えている。</p>		<p>業務優先の考えを止め、ケアを行うように職員同士話し合っている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の今までの生活歴を考えて、その人らしい服装や身だしなみを行えるように支援し、また季節感のある服装や髪型にもおしゃれが出来るようにも支援している。</p>		<p>今後はより本人の希望を考慮し外出する機会を増やしたい。又、「素敵ですよ」「似合っていますよ」等の言葉掛けを行い、入居者自ら希望を出せるように支援していきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>給食係りを決めて積極的に、入居者の好みに合わせた献立作りに努めている。食事でも楽しく食事が出来るように環境作りに勤めている。食事の準備や後片付けも職員と入居者が共に行えるようにしている。</p>		<p>職員と入居者が全員で食卓を囲み楽しく食事が出来るような環境作りを行っている。又、食事の準備や後片付けを一緒に行い協力して行い食事に対しての関心も持っていただけるように支援する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	外出や買い物の機会を作って、日常生活の支援を行っている。又、お酒を飲まれる方、居室でお茶やお菓子を頂く方、チョコレートが好きな方など個々の嗜好に配慮している。		訪問販売や本人の希望時に近くのスーパーに付き添い、本人に買い物をしてもらうように支援している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちよい排泄を目標に上げた介護計画を作成しているケースがある。記録を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握し、ケアプランに沿った支援をしてる。		排泄パターンを把握し、必要時には下剤等の調整を行い介護計画に沿ったケアを行い、少しでも自立に向えるような、援助をしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間や回数を気にせず、入居者の希望に合わせた、入浴の支援を行っている。		入浴の回数の少ない方への入浴のお誘いや、気兼ねなく入浴できる環境作りに努める。一番風呂を希望する方が多くなってきているのでトラブルが起きないように調整を行うようにする。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	常に入居者の身体状況を把握し、無理のかからない生活が送れる様、心がけを行い、日々の記録を参考に一人ひとりの睡眠パターンを把握し支援している。お昼寝の声掛けや夜間の安眠確認等を行い支援を行っている。		今後も生活リズムを考慮した対応に努めたい。夜間も安眠できるように様子観察や就寝薬の服薬の管理を行う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割作りを行い、活躍の場を作ることで、本人に自信を持って生活できるようにしている。頼む際の言葉がけ、終わった後の感謝の言葉を忘れずに実施している。又、楽しむ事への支援を行っている。		張り合いを持って家事のお手伝いをされている為、トラブルに注意する。又、個々に合った楽しみの提供を今後、一層努力を行いたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来るだけ本人に金銭を管理してもらい、買い物等を行っている。		今後も出来るだけ本人にお金を渡し、買い物への声掛けを行いお金を使用する感覚を持ってもらう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の自己決定の権利を大切にして、希望に沿った外出が出来るように支援している。		今後も外出する機会を多く設けていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族のご協力のもと、本人の希望する場所へいけている。また、行事等でも函館山、大沼公園、函館空港等に行き、外出する機会を増やしている。		行事係を中心に花見や紅葉会等の行事を行い出かけている。又、家族の支援で遠方へ外出される方もいる。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホーム内の公衆電話を利用したり、携帯電話(本人持ち)を使用したりしている。ご家族様より来られた電話は子機を使用し対応を行っている。		今後も希望に応じて家族や友人との連絡が出来るように支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を設定せずにして、家族や馴染みの人の訪問は自由に出来る環境にしている。面会時にはお茶をお出しし、入居者の近況を話している。		今後も家族等からの意見も引き出し工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しており、職員全員で取り組んでいる。		定期的に勉強会を開催し常に意識して業務が出来るようにしている。また、少しでも疑問があるときは職員同士での確認や管理者への質問が出来るようにしてある。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵をかけることは無い。玄関は防犯の為、夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけずに出入りできるようにしている。		今後も出来るだけ見守りのみで出来るように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は職員同士が連携をとり、把握に努めている。夜間はプライバシーを考慮し、見守りを行い把握に努めている。</p>		<p>今後も職員同士の連携の向上に努めて行き安全の配慮に努めていきたい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>針仕事やハサミを使用している場合は職員が一緒に行かない危険の防止に努めている。</p>		<p>職員がその時の状況に合わせて、危険がないように物品の保管、管理を行なっていく。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止委員会を設置しており、事故に対して話し合いを行い、事故の防止に努めている。インシデントの提出を積極的に行っている。</p>		<p>今後も月に1度の事故防止委員会での会議と勉強会を定期的に行い、勉強を行っていく。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成して、職員への熟知を心がけている。職員の目の届く場所に掲示してある。また掲示している書類もわかりやすく簡潔に作られている。</p>		<p>研修係を設置して勉強会を定期的に行い、勉強を行っている。また、消防で実施している講習も参加して勉強している。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に2度、消防署立会いの避難・誘導訓練を実施している。</p>		<p>防火管理者の資格を持つ職員がいるので、防火管理者中心に勉強会を開き、避難方法等の研修を行っている。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>担当者より十分に説明を行っている。</p>		<p>家族との話し合いも含め、まず十分に職員全員で話し合いを行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>医療連携を取っているので、緊急時には担当の看護師より指示をもらえるようにしてある。小さな気づきにも申し送りをし、情報の共有に努めている。緊急時には24時間いつでも看護師への連絡が可能なので、早急な対応でも可能である。</p>	<p>今後も対応の強化と十分な他職種との連携を密に取っていききたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を職員全員で確認することにより、職員全員で薬の理解を行えるようにしてある。服薬の際に十分な様子観察と服薬管理を行わない用法、用量を守っている。</p>	<p>薬の変更時には、きちんと情報交換を行っている。また、わからない点も医療連携の看護師に質問する事も出来る。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>運動は状況を見て、声がけを行い運動を行っている。今後も定期的に便秘についてや脱水症状についての勉強会を行う。</p>	<p>今後もきちんとした予防と対応を行い、積極的に取り組んでいきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>起床時・就寝時に口腔内の清潔を支援している。出来るだけ本人に口腔内の清潔に取り組んでもらうように本人にも手伝ってもらっている。出来ない方へはケアプランに反映し対応を行っている。又、何か異常がある場合は、訪問歯科を行い対応している。</p>	<p>今後も口腔内の清潔維持に取り組む十分な支援を行なう。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量・水分量については必ず記録に残している。個々に合わせてお粥やキザミ食、糖尿病の方への調整等を行っている。ご家族等が持参したおかず等もきちんと冷蔵庫に預かり適正に提供を行う。</p>	<p>職員で献立を作っている。その際に各種調理本より情報を引き出し健康に良い食事と個々の嗜好に合わせた献立を立てられるように工夫している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対してマニュアルがあり、理解を深めるように実施している。感染症防止のために次亜ソフト水を加湿器での散布を行っている。</p>	<p>今後も感染症に対しての知識を深めていくことが大切である。その為に職員一人ひとりがきちんと意識して実行している。又、研修会を設置しているので研修会でも感染に対する勉強会を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	毎日必ず調理場・調理器具の洗浄・消毒を行い衛生環境の保持に努めている。		季節に応じての消毒・清潔に努めている。また、調理の際には必ず検食を行い何かあった際の対応も行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関周りに植物を置き、季節に応じた物を置き、雰囲気作りに配慮している。又、季節に応じて雛人形やクリスマスツリー等を飾っている。		今後も様々な工夫を行い、圧迫感を感じさせない環境作りに努めたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	花を生けたり、季節に合った置物を置いて和やかな雰囲気を作っている。掲示板や壁に行事の時の写真を掲示し話題作りを提供している。		今後更に家庭的な環境作りを工夫して、入居者が住みやすく、季節を感じることが出来るように努めたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	玄関・ホール・多目的室等の場所があり、居室以外にも入居者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。庭にはベンチ、玄関には椅子、和室には座布団、ホールにはソファやマッサージチェアを配置している。		食事の際の配置の工夫、状況に合わせた空間作りに努めている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室には使い慣れた生活用品を配置してもらい、居心地良く過ごせるように工夫している。個々の嗜好に合わせた対応をとっている。		今後も本人や家族と話し合いを行い、取組んで行きたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	入居者と話し合い換気を行っている。冷暖房完備なので、季節に応じて正しく調整を行っている。		今後も定期的な空気の入替え、夏季・冬季の温度調整に常に注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・浴室・トイレ等には手すりが配置されており、ホーム内は全てバリアフリーになっている。</p>	<p>車椅子の自走の方のためにソファの位置を工夫している。玄関へは椅子を置き自分で靴を履いたり、脱いだり出来るようにしている。これからも入居者の生活を見て、より安全な環境を作れるように努める。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々に合わせた支援を行い、決して本人を不安にさせないように援助していく。トイレや居室を忘れられてしまう方の対応の為、掲示物を貼り理解できるように対応している。</p>	<p>今後も日々、入居者を見て、そのときに合った、環境作りに努めたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭が整備されており、植物や家庭菜園がある。又、庭でバーベキューやベンチにて日向ぼっこ、植物への水やり、雑草の草むしり、ベランダでの洗濯物干し等も行い活かしている。</p>	<p>夏季や天気の良いときにはどんどん活用行い、身体機能の向上、又気分転換等を行えるような環境として活用していきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	入居者がグループホームに来る前の生活暦や習慣を維持できるように考えている。また、個々に合わせて対応する事により、その人らしい生き方と楽しみを見つけれるように支援して行く。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	業務の中で時間を見つけてゆったりと生活を行っている。食事の時間やおやつ時間・買物・ドライブなども行い時間を過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	個々の時間を持っており、毎日時間にとられることなく好きな時間を暮らしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	利用者が職員と共に生活を行い、個々に合った支援方法を行うことにより毎日を笑顔で過ごされている。又、不安な表情等が見られた際には積極的に声掛けを行い、不安等を取り除く取り組みを行っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	入居者の希望に沿った外出の支援が出来るように、職員全員で気を配っている。外出が難しい方への対応も十分本人と話し合い対応を行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	週1回の医療連携の体制が確立されており、体調の変化がおこった場合も、24時間看護師との連絡体制も出来ている。又、健康管理時に本人より看護師へ訴えを出来るようになっている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	入居者のその時その時の要望に合わせた対応を行い、安心した毎日を送ってもらっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	面会時に家族との会話の中で、訴えを聞き解決策を話し合っている。またサービス担当者会議で情報の交換や共有を行い、良い関係を作れるように努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	訪ねてきている間隔はそれぞれであるが、見学や面会等により馴染みの方が出来ている。

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	毎回きちんと全員参加するのは困難だが、理解者や応援者が増えてきている。今後は出来るだけ様々な情報の共有に努めていきたい。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員は毎日を楽しみ、理念に基づいて仕事を行えている。又、先輩職員が新人職員への助言やサポートも行なえてきている。資格習得へのサポート等も行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	満足してくれているが、これからも個々に合ったサービスを行って行きたい。状況に満足することなく取り組んでいきたい。今の状況に満足することなく努力していきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	面会時や担当者会議等で家族より要望等を聞き入れているので、満足されている。これからも全ての家族に満足していただけるように努めて行きたい。
【特に力を入れている点・アピールしたい点】 (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)			入居者がグループホームでの生活を、毎日お変わりなく過ごされるように職員全員で取り組んでいる。これからの毎日が入居者にとって良い思い出になる様にしていきたい。又、当事業所以外にも提携のグループホームがあるため、互いに意見交換を行いサービスの質の向上と改善に努めている。又、事業所内外での研修等にも積極的に参加を行い、介護職としてのプロフェッショナルとしての経験を積んでいけるように取り組んでいる。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団向仁会 グループホームよろこびの家住慶 寿	評価実施年月日	平成21年12月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月24日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員全員にアンケートを実施し、取りまとめたものを理念としている。		現在の理念を作成してから、職員の入れ替わりや、利用者のADLの状況、グループホームの地域の立場など変化してきている為、今後見直しを図る予定である。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員が目につくところに常に掲示しており、理念に基づいたサービスを提供できるよう心がけている。		入社時に行うオリエンテーションにて理念に対する説明を行ったり、目につく場所に掲示することで、理念の共有化を図っている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対しては入居時に説明を行い、理解していただけるよう取り組んでいる。地域に対しては運営推進会議の議題にしたり、回覧板に挟んでいただく広報誌に取り上げたりして理解してもらえるよう努力を行っている。		理念を理解していただく事が、利用者へのサービスの提供について理解していただくことに繋がっていくので、今後も継続する。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	通勤時や利用者の外出などで声を掛けられたり挨拶を行ったりしており、グループホームの職員ということを知っていただいている。また、行事を行う際はあらかじめご案内を差し上げて、参加を促したりしている。		七夕や夏祭りに参加していただいたり、利用者が一人で外出しようとされている所を発見してお知らせして下さったりと、何かと協力していただいている。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の港祭りや文化祭などに参加させていただいており、地域の方との交流を図っている。		利用者が地域の行事に参加していけるように、管理者は町内会の集まりなどに参加して協力をお願いしたり、また、運営推進会議時に議題として、今後どのように参加していけるのかを話し合っていく予定である。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	隔月に運営推進会議を行って、意見交換や地域の高齢者についての情報の共有化を図っている。また、その場合に何処にどのように相談して良いか分からないなどの話が出るが多々ある為、適切に対応出来る様相談の窓口としても利用していただけるよう助言を行っている。		独居の高齢者が多い地域なので、民生委員の方から日常の様々な情報をお聞きし、その中で地域の方にとって気軽に相談していただける場所としてお問い合わせしていただけるようその都度お話をさせていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価を行う際に、自己評価の取り組みや外部評価の意義などを確認し、職員全員で自己評価表の作成に携わり、その中で業務改善を行うべきものはスタッフ会議で取り上げて具体的な改善策を話し合っている。</p>	<p>改めて自己評価を行う事で見えてくる問題点などがあるので、その都度職員間で話し合い、より良いサービスの提供や運営を行っていただけるよう努力させていただいている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>議題にて取り上げさせていただき、評価の内容や改善に向けての取り組みなどをお話させていただき、第三者の視点からの意見をいただいて参考にさせてもらっている。</p>	<p>運営推進会議では客観的に意見を述べていただけるので、職員からの意見とは違う視点での指摘や意見をいただいている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>生活保護受給者が入居されているので、定期的に来訪される機会があったり、またその利用者に関しての連絡事項などがある際には、電話連絡や時には市役所に向ってお話させていただき、意見を参考にさせていただいている。</p>	<p>サービス担当者会議等に参加していただき、意見をいただいている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>系列の包括支援センターが定期的に勉強会を行っているので参加させていただいたり、外部の研修会などで講義を聞いたりして知識を深める努力を行っている。</p>	<p>現在該当利用者がいないため、今後必要に応じて対応していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会が設置されており、管理者が中心となって虐待防止や身体拘束の防止に向けて事例検討を行ったり、テレビや新聞等で取り上げられた実際のニュースを参考に、日常的に話し合う機会を設けている。</p>	<p>日常的に話し合う機会を設けることで、虐待や拘束に関する意識が高まり、防止につながっていくので、今後も継続する。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居窓口担当が申し込みの際に十分に話し合いを行い、管理者も同席して対応を行っている。</p>	<p>入居までに何度も話し合いの機会を設け、利用者やご家族の疑問点や不安を解消して、安心して入居していただけるよう努力している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談窓口を設けており、相談を受けた際にはスタッフ会議や管理者会議の議題で取り上げて、サービスの向上に繋がっていくよう反映させていただいている。</p>		<p>苦情等は職員同士で情報を共有して適切に対応を行っているが、判断が難しい事項などは管理者会議や運営推進会議での議題にて取り上げてもらい、利用者にとってご満足していただけるサービスの提供を目指している。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>利用者への面会時に近況報告(日常生活から金銭に関して)をさせていただいている。</p>		<p>請求書を送付する際にお知らせや広報誌を同封し、ホームの近況報告を行ったり、遠方のご家族には電話連絡やお手紙を送付して利用者の近況をお知らせしている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談窓口を設けており、相談を受けた際には運営推進会議や管理者会議の議題で取り上げて、サービスの向上に繋がっていくよう反映させていただいている。</p>		<p>苦情等は職員同士で情報を共有して適切に対応を行っているが、判断が難しい事項などは管理者会議や運営推進会議での議題にて取り上げてもらい、ご家族や利用者にとってご満足していただけるサービスの提供を目指している。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1度理事長及び財務理事が同席する管理者会議を行い、その場で職員から吸い上げた意見や提案を話し合う機会を設けていただいている。</p>		<p>以前よりは会議での意見の吸い上げなどが円滑に行われるようになってきており、建物の不備や職員の勤怠などに迅速に対応していただけているので、今後も継続する。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>日々の予定や勤務状況に合わせて管理者が調整を行ない、対応している。</p>		<p>毎月にスタッフ会議を行い、利用者の状況の変化などを汲み取って利用者に合わせて対応が出来る様、勤怠や業務改善を行って努力している。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動や離職は利用者とのなじみの関係への妨げになるので、出来るだけ最小限に抑えるよう努力を行っているが、そうでない場合は他の職員でフォローし、利用者が新しい職員になじめるように配慮を行っている。</p>		<p>新規の職員に対してはオリエンテーションの際にその旨を充分説明し、なじみの関係を築くために努力してもらうよう助言を行っている。また、他のスタッフは利用者が不安にならないように普段以上にケアの際に充分注意し、対応するよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内で行う研修会はもちろんのこと、外部で行う研修にも積極的に参加したり、研修係を選出して、職員で勉強したい内容を決めて勉強会を行ったりしている。</p>	<p>知識や技術の面で情報の共有化を図り、職員同士の差が無い様に努めている。また資格取得を積極的に奨励しており、職員が資格を取りやすい環境作りを行なっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>南北海道グループホーム協議会に所属しており、ブロック会議や研修会などに参加して情報の共有化を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>ブロック内での情報の共有化を図っており、管理者同士で定期的に連絡を取り合い、ケアの向上につながるよう取り組みを行なっている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>法人で納涼会や忘年会などを企画し、グループホーム以外の施設交流を行ったり、職員間で食事会やカラオケ大会を企画して交流を図っている。また、管理者は職員に対して定期的に面談を行い、業務内容に対する悩みなどを聞く機会を設けている。</p>	<p>利用者のレベル低下や、職員の状況に変化が合った時には、特に不安になったりストレスを抱えることが見られているため、普段から声掛けを行い、職員が不安を抱え込まないように安心して働ける環境作りを心がけている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>契約更新時に人事考課表を作成して、個々の能力に対する評価を行なっている。面談時には個人の目標や抱負なども聞き、評価に活かせるように対応している。</p>	<p>具体的に評価する事によって、個人の課題や明確な目標が出来、向上心を持って働くことが出来るように取り組んでいる。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当と管理者が事前に訪問し、入居に至るまで十分な話し合いの場を設けて対応している。</p>	<p>本人の目線に合わせて、入居前後に対する不安等の解消に努めている。また、担当者は認知症ケア専門士の資格があり、認知症の利用者を抱えているご家族への配慮に長けており、信頼関係を有効に築くことが出来ている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当と管理者が事前に訪問し、入居に至るまで十分な話し合いの場を設けて対応している。</p>	<p>入居前後に関するあらゆる事柄に関して相談に乗り、見学の機会を設けたり、必要であれば他の利用者の事例を用いて具体的にお話して、安心して入居していただけるように配慮を行なっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談担当者と管理者は、ご本人やご家族と十分に話し合いを行って、必要とされる支援方法を決定している。		個々に合った支援方法を的確にアドバイス出来る様に情報収集し、対応を行なっている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能であれば入居前にご本人がご家族と見学できるよう協力して頂き、生活の場や雰囲気を感じ取っていただいて、安心して生活していただけるよう配慮を行なっている。		利用者の生活暦や習慣を尊重して、入居後も今まで通りの生活ができるように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常に利用者を第一に考えて、利用者から学ばせていただく姿勢を大切に信頼関係を築けるよう心がけている。		理念にもあるように利用者様の思いや会話を大切に、一緒に生活する事で信頼関係を築けるよう取り組んでいる。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に生活の様子をこまめにお伝えしたり、サービス担当者会議やカンファレンスで話しあった事を活かして、利用者の人格や生活を尊重していけるようにご家族と一緒に考えていける環境を作っている。		ご家族でなければわからないことや言えない事、出来ない事を一緒に考えて支援出来る様な体制を築いている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族と利用者がお互いにコミュニケーションを取りやすいように、日常生活の情報(主に介護記録)を開示している。		情報だけでなく、月ごとの行事にもご家族への参加を呼びかけて、一緒に楽しんでいただけるように配慮している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力の下、ご本人が行きたい場所へいつでも行けるような支援体制が出来ている。 また入居の際には、本人やご家族が希望されれば、今までのかかりつけ医や美容室などへ同行支援も行えるよう努めている。		グループホームに入居されても、以前の生活を維持することが大切だと職員全員が考えているため、シフト調整などを行なって、支援体制を継続していけるよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	共有の場所で利用者同士が自由に交流できるように、職員が間に入って話題を提供したり、見守りや会話の補助を行うなどして対応を行っている。		家事作業なども共同で行なえるようにその都度声掛けし、また職員も利用者と一緒に楽しめる時間を持てるように配慮している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何らかの理由で転居や退居されたあとも、ご家族からハガキをいただいたり、近くに來られた際には来訪していただいたりしている。		新たに身内の方などの利用相談に來られたり、知人を紹介されるなどの交流があるので、継続していけるよう努力していく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との面談時や職員との会話の中で、希望や意見を引き出しやすいような会話の流れを作れるように配慮している。(例: 簡単にはいい、いいえで答えられるような質問や、こちらから投げかけて反応を見る等)		吸い上げた意見や希望はカンファレンスなどで取り上げ、モニタリング等で検討を行っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居窓口担当者が面談時に本人やご家族から得た情報を元にフェースシートを作成し、これまでの生活の様子や既往歴などを記載して把握するようにしている。		その他に知り得た情報は、その都度フェースシートに書き足し日々の状況把握に努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプランに基づいた1日の状況を経過記録に残して、温度板や排泄記録を使って心身の状態や体調管理を総合的に把握出来る様に努めている。		変化や気付きがあったときにその都度記録を行い、生活を把握することで急変時の対応に役立てるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の意見はもちろんのこと、医療連携の看護師や主治医などの意見を取り入れて介護計画書を作成している。		不明な点や判断が難しい事例があった時には、ホームの介護支援専門員から助言をもらって、カンファレンスやサービス担当者会議で話し合い、出された意見を反映させた介護計画書を作成するよう心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に必ず見直しを行い、状況に応じてアセスメントやカンファレンスを行って介護計画書への追記などを行っている。 また、事故や突発的な入院により根本的な見直しが必要な場合は、その都度介護支援専門員やご家族と話し合い、現状に応じた計画書を作成している。		不明な点や判断が難しい事例があった時には、ホームの介護支援専門員から助言をもらって、カンファレンスやサービス担当者会議で話し合い、出された意見を反映させた介護計画書を作成するよう心がけている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づいた1日の状況を経過記録に残して、温度板や排泄記録を使って心身の状態や体調管理を総合的に把握し、アセスメントに活かしてモニタリングやカンファレンスを行っている。		スタッフ会議やカンファレンス議事録、また、会議に参加できないときにはマイウェブの在席管理を利用して意見をだしてもらい、記録も活用して見直しを行うなどして、日々のケアの向上に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	様々な状況の変化に対応できるように設計されているため、その方に合った支援を行えている。(例:夫婦部屋の活用など)		ご本人やご家族からの要望はできるだけ吸い上げていき、いつでも柔軟に対応できるよう取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	提携施設や近隣との協力体制を密に取れるよう努めている。		運営推進会議を通して地域の様々な機関との連携を図れるよう、広報誌を配布するなど行っている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご家族と相談し、本人が希望するサービスの提供が受けられるように他の事業者と連絡を取って対応している。(例:自宅への一時帰宅・フリーの外出等)		地域包括支援センターや提携の施設等に相談して、利用者の要望にあった対応が出来る様に協力体制が整っている。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の出席や、包括からの見学希望者と一緒に訪問されたり、また地域からの相談を包括支援センターへ問い合わせるなどして、協働を図っている。		包括支援センターの役割を利用者やご家族に知っていただき、今後も何らかの形で協力しあえる体制を強化していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	入居前と変わらずに、かかりつけ医に継続して受診できる体制が整っている。		急変時には電話相談などを行い、その時の適切な処置及び指示が受けられる体制が整っている。
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	母体の医療機関に有資格者の医師がいるので、その都度必要に応じて助言や指示を受けられる体制を確保している。		主治医でなくても相談できる体制が整っているため、いつでも気軽に相談でき、認知症に関するあらゆる事柄を解決出来る様努めている。
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	母体の医療機関と医療連携を提携しており、週に1度健康管理をしていただいている。		24時間、携帯電話にて連絡が取れる体制になっており、急変時の対応や指示・助言を迅速に対応していただいている。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	入院時には管理者や入居窓口担当者が中心となって、入院先の医師やソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い、早期退院に向けて対応している。		ご家族とも密に連絡を取り合い、面会が可能であればご本人との面会をさせていただいたり、担当医師からの説明等を一緒にお聞きするなどして、退院に向けた対応を行っている。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	重度化した場合や終末期のあり方についての見取りの指針がある。		現在、重度化した場合の対応の仕方や、終末期の際、ご家族や医師との連携の仕方を職員全員で確認しながら、対象者が出た場合に備えて準備を行っている。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	利用者やご家族が希望された場合に備えて、主治医や医療連携の看護師などと連携を取り、対応できるよう体制を整えている。		現在、重度化した場合の対応の仕方や、終末期の際、ご家族や医師との連携の仕方を職員全員で確認しながら、対象者が出た場合に備えて準備を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>転居などの際はご家族と担当で充分な話し合いを行い、利用者が移動された後も速やかに普段どおりの生活が出来るように対応を行っている。</p>		<p>転居先の担当者に可能な限りの情報提供を行い、転居されたその日からも同様にケアや支援を受けられる体制を整えてもらえるよう対応をお願いし、こちらも協力を行っている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>理念に基づき、個人の気持ちや尊厳に配慮した対応を行っている。 また記録に関しては、個人情報保護法に則って厳重に管理、取り扱いを行なっている。</p>		<p>利用者の気持ちや立場を考えられるよう心がけ、業務にあたるように意識して対応をさせていただいている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者との関わりを多く持ち、本人が希望や自分の思いなどを自由に表現できる環境作りに配慮して、利用者のペースで生活出来るよう配慮している。</p>		<p>利用者の意見や希望を尊重した介護計画書を作成し、それに基づいた支援を行っている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個人の生活のペースに合わせた支援をそれぞれに行っている。</p>		<p>一人ひとり生活のペースが違うので、食事やお茶の時間をある程度定めている以外は本人の好きなように生活出来るように、それに合わせて職員の1日の業務内容を決めて行動している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節や気候に合った服装が出来るよう声掛けや準備のお手伝いをし対応している。 また、出張理容を利用したり、以前からの馴染みの店を利用して対応している。</p>		<p>利用者が選びやすい、または決定しやすいように声掛けを行って本人の意欲を上手く引き出せるように対応している。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>現在、調理が出来る利用者が居ない為、食卓の準備や後片付けを職員と一緒に行って もらっている。</p>		<p>一緒に作業を行うことで食事に対する興味を持ってもらい、職員も含めて楽しくお食事が出来る環境作りに努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	給食係が中心となって、利用者の好みに合わせた(おやつも含めての)献立作りを行っている。 また、嚥下状態や体調に合わせて調理法を工夫し、美味しく召し上がっていただけるよう対応している。		嗜好品に関しては主治医と相談して、ある程度制限を設けて楽しんでいただいている。また、高齢者に合わせたメニュー作りに心がけ、職員と利用者が一緒に楽しんで食事が出来るよう心掛けている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄が困難な利用者には、排泄に関連したケアプランを作成して対応させていただいているが、本人が気持ちよく過ごしていただけるように本人の排泄パターンを把握して、支援を行っている。		利用者の体調や気持ちに考慮し、本人の排泄パターンに合わせ、苦痛を感じることはないように配慮を行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	特に入浴時間を設けず、本人が好きな時に入浴できるよう対応している。		職員のシフトもすぐに対応できるような体制を整えている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の睡眠パターンを把握して、その時々に合わせて対応を行っている。		状況に応じてお昼寝やベッドでの休息を勧めたり、夜間寝付かれないことがあるときには主治医と相談して、就寝薬の管理などを行なっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割作りや趣味を活かした環境作りに努めており、利用者により有意義に過ごしてもらえるよう支援を行っている。		何事に対しても温かい言葉や感謝の言葉掛けを行い、利用者にとって意義のある内容になっていただけるよう支援を行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身で管理が出来る利用者に関しては、少量のおこづかいを持っていただき、一緒に買い物へ行ったり訪問販売を利用されたりしている。また、管理が難しい利用者に関しては、管理者が預かり金の管理を行なって、その都度対応している。		不安な部分は職員がお手伝いを行ない、なるべく本人が行えるように支援を行っている。(金銭の感覚や理解を忘れないように)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や利用者の状況を見ながら、気分転換のドライブや希望者を募って買物に出かけたりしている。		今後も気軽に外出できるよう支援を行っていく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事係が中心となって利用者にアンケートを取り、季節にあった外出行事を企画している。ご家族には請求書と一緒に案内文を送付して参加の呼びかけを行って、一緒に楽しんでいただける環境作りを行っている。		日常の会話から行きたい所や食べてみたいものを吸い上げて、企画に反映できるようにしている。またご家族にも希望を聞く機会を設けて、意見を反映出来るようにしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話がホーム内にあるため、自由に電話をかけることができる。また、手紙や葉書のやり取りも気軽に行っている。		自身で行うことが難しい利用者に関しては、管理者や職員が代行して電話連絡を行ったり、写真を送付して対応している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	防犯上の理由のため、午後9時以降は面会をお断りさせていただいているが、それ以外については特に制限を設けていない為、いつでも面会が可能である。		利用者の自室やホールにて談笑する環境作りを行ったり、時には一緒に外出も楽しんでいただけるよう配慮を行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が中心となって事例検討や研修を行い、日常のケアの仕方を検討して身体拘束ゼロへ向けての取り組みを行っている。		日常のケアで疑問などがあるときは、その都度話し合いや臨時のスタッフ会議を行って、身体拘束廃止に向けて意識を高める環境作りを行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	時に利用者自らが鍵をかけられることはあるが、職員が施錠することは無い。玄関に関しては防犯上の理由の為、午後9時から翌朝6時まで施錠を行っている。		ご家族や利用者には入居時に担当者から説明しており、了承をいただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個人のプライバシーに配慮しながら常に利用者の所在を把握しており、夜間は時間ごとに見回りを行って安全確認をしている。		職員同士で連携を取りながら利用者の所在を把握し、行動制限にならないように見守りや声かけを行って対応している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤や刃物(ハサミや果物ナイフ等)などご家族や利用者と相談して、本人が取り扱えるものであれば自由に使ってもらっているが、明らかに危険なものや薬剤に関しては、職員がお預かりして管理を行なっている。		職員が利用者の状況に合わせて危険がないように管理し、保管を行なっている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を設けており、事例検討や実際に各ホーム出起きた事故の検討などを行って、事故防止に努めている。		事故防止委員が中心となって、ヒヤリハット用紙への積極的な記入や事例検討などを通して事故防止に対する意識を高めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成したり、特変時に職員が直面して困ったことなどを吸い上げてスタッフ会議等で話し合いを行い、その時に備えての研修を行っている。また、消防の救命講座にも参加している。		定期的にマニュアルの見直しを図ったり、研修係りを中心にして研修会を企画して、全員が緊急時に対応できるよう努めている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の消防署員に立ち会ってもらい、訓練を行ったり、講義を開いてもらったりしている。		防火管理者が中心となり、訓練計画を立てて実施している。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居時に入居窓口担当と管理者がご家族に対して十分な説明を行い、了承を得ている。		それでも起きてしまった場合には、職員やご家族と一緒に今後の対応策について話し合い、利用者にとって一番の最善策を支援できるよう対応を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>温度板や排泄表を使って体調管理を行ない、変化があったときには医療連携看護師に連絡し、相談や指示を仰ぐ体制が整っている。</p>	<p>職員全員が利用者に関する情報を共有できる体制が取れている。また、医療連携看護師には専用の携帯電話で24時間オンコールが可能となっている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人のフェイスシート用ファイルに、処方箋もファイリングされており、いつでも確認できるようにになっている。また、服薬の際には職員が必ずそばにいて服用の確認を行っており、その際には用法・用量を遵守している。</p>	<p>服薬に変更があった場合には、ファイルの差し替えやマイウェブシステムの在籍管理を利用して、職員全員が情報を共有できる体制になっている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>普段の食事のメニューや、水分補給をこまめに行うなどして管理を行なっている。また医師からの指示で下剤を服用されている利用者に関しては、排便の状態を把握してし主治医や医療連携看護師と相談して調整を行っている。</p>	<p>排泄表を活用して、通院時や医療連携看護師が訪問された時に相談し、今後の相談や指示を仰いで、排便管理を行なっている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>食後や起床・就寝時には歯磨きやうがいなどを施行して、口腔内の清潔保持に努めている。</p>	<p>その都度義歯や自歯の確認を行って、必要があれば訪問歯科の利用をしたり、利用者自身が磨いたりするのが難しいところはお手伝いを行うなどして清潔保持に努めている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>温度版にて水分量や食事の摂取量を管理しており、通院時や医療連携看護師が来訪された時に確認してもらいながら相談や指示を仰いでいる。</p>	<p>個々の嚥下状態に合わせた食事形態(おかゆ・キザミ食など)にし、まんべんなく食事が出来るよう心掛けている。また、給食係が中心となり高齢者の食事に関する本などを調べて献立を考えるなどして対応している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関するマニュアルがあり、起きた場合にはマニュアルに従って行動している。また、保健所が開催する感染症の研修会に参加して、対策などを勉強している。</p>	<p>保健所から送られてくる情報を常に共有し、正しい知識と予防法にて感染症が起きないように努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食品衛生管理者が中心となり、食材の管理のしかたや残り物の始末などの指導を行っている。</p> <p>また、調理器具などもその都度消毒し、安全な調理環境に努めている。</p>		<p>感染症の勉強会と合わせて、定期的に食中毒などに関する事項も勉強し、食中毒が起きないように予防に努めている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りにプランターなどを配置して、季節の植物が楽しめるように工夫している。</p>		<p>家庭菜園なども実施して、施設らしさを感じさせない工夫を行っている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者が集まりやすい場所にソファやテレビを配置し、各自が好きな場所で寛げるように配慮している。</p> <p>また、行事での写真や季節の飾り物(クリスマスツリーや正月飾りなど)を飾って、利用者に季節を感じていただけるよう配慮している。</p>		<p>利用者が集まって寛いだり、談笑したりして楽しめる空間作りに努めている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>家具の配置に工夫をして、共有の場所でも一人で寛げることができるような位置に椅子を置いたり、利用者が好きな場所で新聞を読んだりすることができるように配慮している。</p>		<p>スタッフルームの隣にある和室や多目的室も自由に使用する事ができ、寝転んだり外の景色や自動販売機の利用など、幅広く使ってもらっている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際、予めご家族とご本人にはその旨をお話し、使い慣れたものや利用者がそばに置いて安心するものを優先的に配置するように心掛けている。</p>		<p>居室内に収まるのであれば特に制限は設けていないので、希望されるものを自由に持ってきていただき、使ってもらっている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各自室には換気扇と冷暖房が完備されており、利用者の状況や季節に合わせて温度管理や調整を行っている。</p>		<p>個々の好みに合わせた温度調整を行っているが、ストーブなどの「火」が見えなくて暖かさを感じない利用者に関しては、その都度冷暖房のある場所を確認してもらって、理解していただくよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>個人の身体能力に合わせて、色々な使い方が出来る設計になっている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		<p>都度利用者の状態把握を行い、自立へ向けた支援を行っていきけるよう努めている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>利用者は自由に行き来することができ、洗濯干しや昼寝、体力作りの場に活用してもらい、身体機能の向上に役立っている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日々の暮らしの中での利用者の様子や、会話の中から本人の意向を汲み取り、個々に合った生活支援を行っている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶の時間や家事作業など、一緒に過ごす時間を大切にして、ゆったりと過ごすことを心掛けている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>水分補給と食事の時間はあらかじめ決められているが、それ以外の時間については利用者が各々に好きなことをしており、利用者のペースに合わせた生活が送られるよう配慮している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>日々の暮らしの中で、出来ない所や本人がして欲しい事などをお手伝いさせていただいたときに、笑顔や感謝の言葉が聞かれる。コミュニケーションが困難な利用者に関しては、顔つきや表情の変化を読み取って、喜ばれているのかどうかを確認させていただいている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>現在、自分の意思で行きたいところの希望が言える利用者が限られており、その利用者に対しては、日にちや勤務の調整を行なって対応している。それ以外の利用者に関しては、行事外出や気分転換のドライブ等に参加していただけるよう声掛けを行なって、外出していただいているが、希望に添えているかどうか判断が難しいところである。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>毎週医療連携による健康管理が行われており、気になったことや最近の様子を相談して指示をもらったり、主治医へ薬の処方をお願いしてもらったりと協力していただいている。また、かかりつけ医も電話対応で利用者の様子を伺ってくれて、適切な助言や薬の処方などの協力をいただいている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その都度利用者の状況に合わせた勤務体制を整えることが可能なので、その都度対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>職員全員が顔なじみの為、面会ごとに利用者の日常の様子や出来事などをお話させていただき、信頼して任せていただけるよう努めている。また、主に新規利用者のご家族が遠方に住まわれている為、管理者が電話や手紙で利用者の近況をお知らせし、現在密に連絡が取れるよう調整中である。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>利用者の面会に関しては、ご家族や本人から特に留意点が無ければ、誰でも自由に面会する事が出来るので、ご家族以外に昔からの友人やご兄弟などが面会に来られることがある。また、地域の民生委員による日常生活訪問もあり、その都度対応を行っている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	ホームが出来てから、広報誌などを通してグループホームのことを認知していただく機会が増え、地域高齢者からの介護に関する相談を受けたり、近隣で獲れた海藻等を食材として持ち寄ってくれたりすることがある。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員は常にゆとりのある介護を目指し、積極的に業務改善にむけたスタッフ会議を行ったり、管理者は勤務調整を行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	全てのニーズに応えていくには、まだまだだと思っているが、利用者の自立支援に向けて、自分らが出来る最大限のサービスの提供を今後も行っていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	利用者に対するサービス内容や、ホームの理念方針などに理解をいただき、ご協力していただいているが、新規利用者のご家族に関しては満足かどうかをご判断いただくまでには至っていないので、今後安心して任せいただけるように努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者にとって住み心地の良い環境作りを目指し、あくまでも本人のペースで生活していただけるよう、大まかな時間設定(食事やお茶の時間)をする以外は、好きなときに入浴や趣味の時間を活かすことができるよう対応することを継続している。また、ゆとりをもってサービスの提供が出来る様に職員が個々に意見やアイデアを持ち寄り、積極的に業務改善を行って、日々の業務に取り組んでいる。